

## I — B — 14

## 補中益気湯を経口投与したヒト精漿中での精子運動

国立京都病院・内分泌代謝疾患センター・研究部

田代眞一

【目的】われわれは第2回学会で、双子管中で補中益気湯が精子運動を延長させること、補中益気湯の経口投与後に時間とともに血中に出現する成分が、それが補中益気湯自体の成分か、その代謝産物か、それらが作用した結果生体が分泌したホルモン様の内因性成分かは別として、幾つも精漿中にも出現し、経口投与された補中益気湯の作用が、精子の存在する精漿中にも到達している可能性が強いことを報告した。今回、補中益気湯投与前後に時間を追って採取した精漿と精子を適宜組合せ、補中益気湯経口投与後の精子の運動能と精漿の精子運動延長能をそれぞれ検討し、興味ある知見を得たので報告する。

【材料と方法】正常男性にツムラ医療用補中益気湯を3包(7.5g)経口投与し、その前あるいは3ないし6時間後に、精液を的手法にて採取した。得られた精液は、液化後、遠心にて精子を除去し、冷凍保存した。用時同様に、補中益気湯前後に採取した精液を、フィコールを敷いた遠心管中で遠心して精子を得、ハリソン兼子-田代の緩衝液で洗浄して、保存しておいた精漿とそれぞれ組み合わせ、運動率の経時変化を測定した。

【結果と考察】補中益気湯投与前後に採取したどの精子も、投与3時間後の精漿中で、最も長く運動を持続した。6時間後の精漿にも弱いものの同様な効果を認めた。これらの結果は、(1)精子が補中益気湯に一旦触れることによって長生きするのではなく、精子の泳ぐ環境中に補中益気湯の投与に由来する成分の存在していることが大切であることを示唆している。また、(2)実験の性質上細かく時間経過を追うことができなかったが、補中益気湯経口投与後3時間前後に、精子運動を延長させるような成分の精漿中濃度が、恐らく高まり、至適濃度に到達している可能性を示唆している。更に、(3)精子が受精のために長生きすべき場は女性の体内であるので、補中益気湯を、精子運動の悪い男性不妊症患者のパートナーたる女性に与え、ペアで治療するという新しい考え方が可能であることを示唆している。その点については、今学会で別途報告する(田中熟・田代眞一)。

【結論】補中益気湯経口投与後の精漿中に、精子運動の持続能を見出した。精子運動の場に補中益気湯投与に由来する成分の存在することが大切で、それだけに、精子運動能の低下した男性不妊症患者のパートナーに補中益気湯を与えるような治療も可能となろう。